

東京民医連

東日本大震災 ニュース

2011年4月6日

No.44

発行：東京民医連事務局

<http://www.tokyominiren.gr.jp/>

電話：03-5978-2741

FAX：03-5978-2865

メール：sien@tokyominiren.gr.jp

「計画停電」「材料不足」に振り回される透析外来

すながわ相互診療所

震災後の「計画停電」は、三多摩や板橋区の一部の事業所に依然として甚大な被害を与えています。

立川市幸町にあるすながわ診療所では月曜日から土曜日までの昼間と、月水金の週3回夜間の外来透析を行っています。患者数は多い日には100名を超えます。「計画停電」実施時には、通常4時間透析を時間短縮する施設が一般的ですが、重篤患者が多く時間短縮はできません。通常午前中9時からの患者には早朝7時、夜間の患者には16時を17時半開始に遅らせて対応しています。「計画停電」初日は翌日の患者60名全員に深夜までかかって電話連絡をし、翌朝職員は6時に出勤しました。送迎担当職員は宿泊しました。「計画停電」は、ひとたび実施が予定されると直前中止となっても、患者に同行するヘルパーや介護タクシーの利用の変更はできないため、透析時間帯を元にもどすことはできず、被害はそのままです。

医療材料はSPDで購入し在庫を最小限にして経営効果をあげていましたが、物流ラインが止まり一気に在庫不足に転落、メーカーから直接購入で急場はしのいだものの、年度末に過剰在庫を抱えることになりました。

4月には診療所として初めて新卒の入職を予定し、皆で育てていこうと意欲を高めていましたが、この事態を受けて研修を行えないため、急きょ立川相互病院へ配属となりました。

「計画停電」は4月一杯ということですが、夏場にはさらなる停電対応を迫られる恐れもあり今後の対応に頭を抱えています。
(事務長 下野 暁志)



小名浜生協病院へ 看護支援はじまる！

全日本民医連の4月からの支援方針で、関東地協（東京、神奈川、千葉、茨城、栃木）が小名浜生協病院の看護師支援をする事になりました。関東地協全体で毎日5人、東京民医連は2人/日の支援を行います。

小名浜生協病院のあるいわき市は、地震と津波で海岸部を中心に死者273人の大被害を受け、電気ガス水道が遮断されました。その後、福島第一原発の事故で住民数万人が避難、その中には医療従事者も含まれ、市内大病院が機能を果たせなくなる中、小名浜生協病院は断水にも関わらず127床の入院機能を守り通して奮闘しています。

本日、一番手で、あきしま相互病院の田代真紀看護師が小名浜生協病院に入りました。なんとしても小名浜生協病院と地域医療を守り通しましょう。

震災支援物資の定期便を終了します。

この間たくさんの支援物資にご協力いただきありがとうございました。支援物資の受付を終了させていただきました。詳細は全日本民医連通達（第ア-439号4月6日付）をご確認ください。